

# 景況レポート

(10月分・情報連絡員80名)

## 各業種の一部で悪化割合が増加し、 全体景況DI値は10ポイント後退

### 【概況(全体)】

10月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが5.0% (前回調査10.0%)、「悪化」が43.8% (同38.8%)で、業界全体のDI値は-38.8となり、前月調査と比較し10.0ポイント下回った。また、売上DI値については、製造業、非製造業とも大幅に悪化した。

製造業で全国及び東北・北海道ブロックを上回っているものの非製造業で景況感が後退したことから、全体の景況DI値については低調に推移した。

### 【業界別の状況】

鉄鋼・金属が引き続き好調を維持しているものの、小売業やサービス業をはじめ、各業種の一部で悪化割合が増加したことが全体の景況DI値を悪化させる要因となった。10月の景況感は、消費税増税による影響は少ないといわれていたが、増税前の9月に比べると反動減の影響が見られる。また、業種を問わず、人手不足の影響が大きくなってきており、受注・収益に留まらず、事業継続等にも大きな影響を与える懸念がある。

### <全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-38.8	-34.3	-34.7
製 造 業	-34.4	-35.2	-36.1
非製造業	-41.7	-33.1	-33.9

### <景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

### 【凡例】

快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り △10以上 △30超 10未満  
 雨 △30超 △10未満  
 雷雨 △30以下

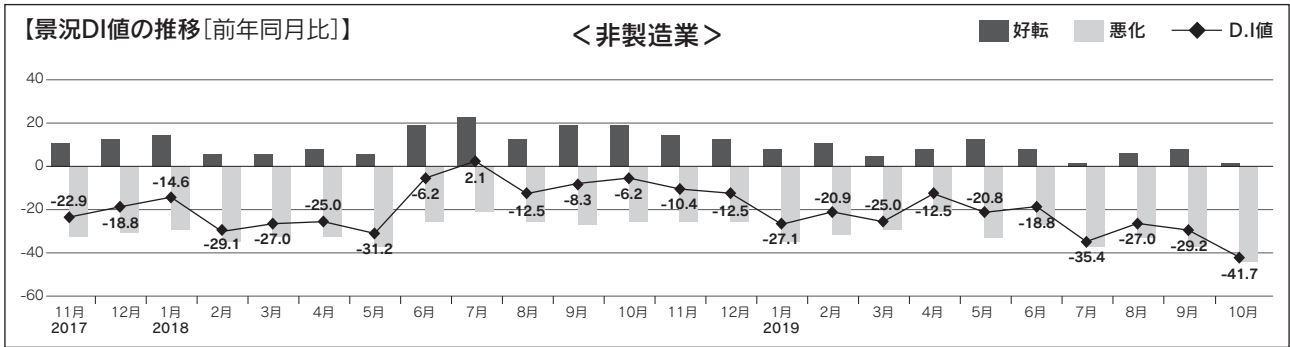
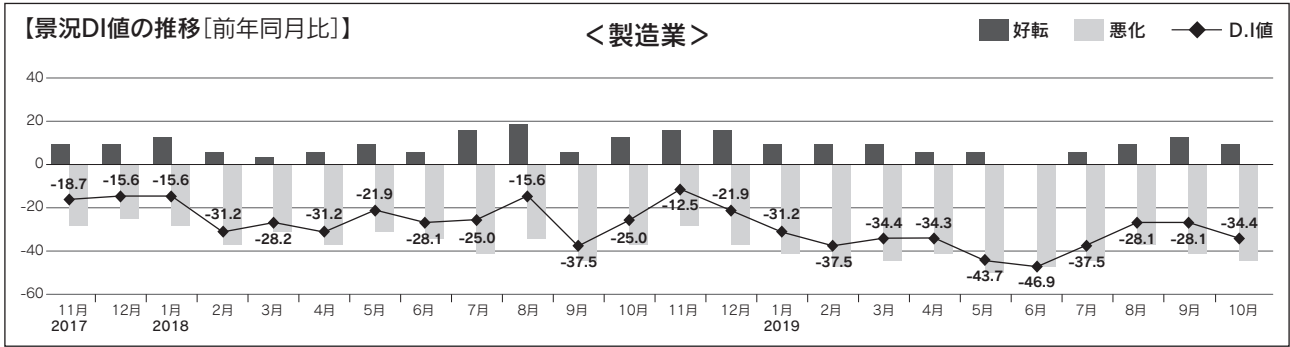
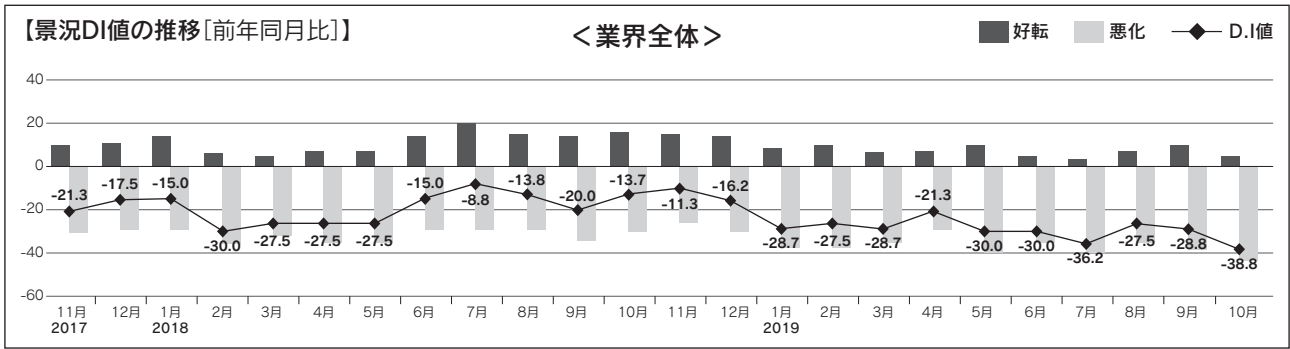
【天気図の見方】  
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (豆 腐)	気温も下がり、商品の動きが出てきた。前年同月比は、ほぼ同程度での推移である。ただ、気温が昨年より高く、若干動きは鈍い。
食 料 品 (菓 子)	食品は軽減税率で消費税は8%のままだが、一部の消費者は全て10%になったと勘違いする人がみられた。売上は依然厳しい状況が続いている。
織 維 工 業 (織 維)	リピート商品が多かったものの、細かい別注も多く切替えが大変だった。人口減少による需要の低下が懸念される。
織 維 工 業 (織 維)	消費税増税後は販売不振が続き、追加生産の依頼及び新規発注が少なくなっている。
木材・木製品 (一般製材)	上半期の製品出荷量は順調(前年比112%)に推移し、10月も受注は順調である。11月以降は、消費税増税の影響から市場の動きが鈍くなりそうであるが、原木は好天気の影響で作業効率も良く、出荷量は安定すると想定される。
印 刷	消費税増税に伴う駆け込み需要の反動で、発注量は大きく下振れした。今後は、消費動向の回復が遅くなるほど、厳しさが増すものと予想される。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	10月の出荷数量は前年同月比104.9%である。今年3月以降、前年割れが続いていたが、先月より秋田地区、男鹿南秋地区で需要の持ち直しの動きがみられ、加えて県南地区の災害復旧、大館北秋地区のトンネル、市役所建設工事が需要を押し上げたことから単月で前年を上回り、4月~10月累計で93.7%となった。
鉄鋼・金属 (機械金属)	各社バラつきはあるが、ほとんどの企業で受注面、収益面ともに好調を維持している。冬場に向けて燃料費等コスト面での負担、消費税など若干の不安要素はあるものの来年3月頃までは順調に推移する見通しである。
一 般 機 器 (金属加工)	受注状況は依然として厳しく、受注内容についても短納期ものも多く、収益面では物件の大半が採算が合わず赤字を余儀なくされている。
そ の 他 (漆 器)	川連塗りフェアは増税後の開催となったが思ったほどの影響もなく、売上は昨年比4%ほどの減少にとどまり、販売価格の上昇で一人当たりの単価が上がっている。伝統工芸館の売上は増税の影響もなく、昨年同月以上であった。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸 売 業 (自動車中古部品)	鉄価格が2回下落し、1,000円/t値を下げた。新車販売台数が全体で25%落ち込み、使用済自動車の在庫台数が不足している。
卸 売 業 (米 麦 卸)	令和元年産米の本県の作況は104となり豊作基調である。組合の検査数量は、前年対比110%を超えており作柄どおりの状況であるが、組合集荷は107%で思ったほど伸びていない。販売の状況は、スタートは順調であったが10月後半から進捗が伸び悩んでいる。
小 売 業 (自 動 車)	10月の新車販売台数は、登録自動車1,447台(前年同月比73.7%)、軽自動車1,466台(同73.2%)、合計2,913台(同73.4%)であった。登録車の車種別では、小型乗用車をはじめ全車種で、前年同月を下回った。
小 売 業 (電 機)	前年同月比では91%と消費税増税初月は予想どおりの大幅減となった。年末までどの程度売上を伸ばせるか不安である。
商 店 街	消費税が増税されたが、街区内では大きな混乱はなかった。顧客へのポイント還元では店舗、顧客双方がカードの取扱いに戸惑いが感じられたようだ。(秋田市)  消費税増税前も後も各店の売上状況は大きな変化は見られなかった。昨年対比は厳しい結果となっている。キャッシュレスはポイント還元を目的とした利用が見られ、9月期より利用回数は多くなっている。(大館市)
サービスマ (自動車整備)	自動車検査台数実績は、全体では前年同月比で9.4%の減少となり、内訳では登録車が12.6%の減少、軽自動車も5.0%の減少となった。消費税増税前の9月の検査台数が前年同月比で約5%の増加であったが、10月が登録車及び軽自動車とも減少となったのは、9月の駆け込み検査の影響によるものと思われる。
建 設 業 (電気工事)	受注は少ないものの、電気工不足により工事店は多忙だった。ただし、新築住宅などは大手ハウスメーカーの材料支給があり、電材店も含めて資材販売は低調に推移している。
運 輸 業 (トラック)	貨物量は例年並みに推移した。前月比の売上、収益とも増加傾向となっており、前年同月比でも増加している。燃料価格も冬期の需要期に入るため、値上がりが見込まれており、値上がり状況次第であるが収益状況への影響が懸念される。